

屋根選び サポートBOOK

屋根材って
どんな種類が
あるの？

瓦のいい
ところって？

屋根って
メンテナンスが
必要？

やっぱり
地震や台風が
心配！



ご存知ですか？屋根のこと



家と暮らしを守る…
屋根って意外と大事なんです。

内装にはこだわっても意外と屋根まで気がまわらない方が多いのではないのでしょうか？ 屋根は風雨から家を守るのはもちろん、音や熱をさえぎり快適な暮らしをもたらすもの。屋根の性能によって家そのものの耐久性も変わります。

屋根材の種類っていくつかご存知ですか？

大きく分類すると「粘土瓦」と「化粧スレート」と「金属」があります。家を建てる時には、その違いを知っておくことがとても大切です。その違いを知らないと、後から大きなメンテナンス費用がかかったり、快適性が違ったりと、後悔することもありますよ。



粘土瓦



化粧スレート



金属

※化粧スレートはセメントと石膏原料とした、薄く板状の屋根材です。



耐久性の
違い

コストの
違い

断熱性の
違い

メンテナンスの
必要性

このBOOKではとくに **粘土瓦のメリット** をお伝えします。





あなたが抱く瓦のイメージって？

他の屋根材より
コストが
高い？

重い屋根は
地震の揺れに
弱い？

和風の
瓦しか
ないの？

屋根材なんて
どれでも
同じでしょ？

やっぱり
台風が
心配...

本当は!!

本当は!!

本当は!!

本当は!!

本当は!!



どんな
住宅にも
ピッタリ

粘土瓦は
夏涼しく
冬暖かい

鶴弥の
粘土瓦はすべて
防災瓦

30年で
考えれば
はるかに安い

新耐震基準
なら大丈夫

詳しくは3P

詳しくは6P

詳しくは7P

詳しくは8P

詳しくは9P



鶴弥製品ラインナップ

スーパートライ110 シリーズ

タイプ-I

いろいろなタイプの
屋根にマッチ。



F形
売上げNo.1

全9色



防災和形瓦 シリーズ

エース

日本の歴史にはぐくまれた、
安らぎのかたち。



J形
売上げNo.1

全13色



タイプ-II

シンプルモダンな
印象のフラットタイプ。



太陽光一体型
対応

全6色



スーパーエースJ1

エースバリアで雨水の
流れをスムーズに。



緩勾配
対応

全2色



タイプ-III

和洋さまざまな建物に
フィット。



緩勾配
対応

全4色



スーパーエースJ2

緩勾配対応はそのままの
シンプルデザイン。



緩勾配
対応

全2色



スマート

フルフラットで洗練された形状が、
住まいをsmartに演出します。



太陽光一体型
対応

緩勾配
対応

全3色



鶴弥製品には太陽光
パネルが設置可能です。

太陽光パネル 据置型



太陽光パネル 瓦一体型



その他製品・
カラーバリエーション・
施工事例等
詳しい情報は
鶴弥ホームページを
ご覧ください!



サンレイ

南欧風の明るい
イメージがポイント。



軽量

全10色



Q. 屋根材によって色落ちしたり、
錆びたりするものがあるの？



A. はい、化粧スレートや金属は
約10年～15年で塗り替えが必要です。
粘土瓦は美しさがいつまでも続くから、
塗り替えの必要がない屋根材です。



色落ちしない粘土瓦

粘土瓦はお茶碗などと同じ焼き物。1,130℃の高温でしっかりと焼き締めるので、塗装と違い色落ちや色褪せがなく、耐久性に優れた屋根材です。時間がたつと、金属は錆が出たり、化粧スレートだと色落ちし、塗り直しが発生します。



錆びた金属屋根



30年後の化粧スレート屋根



30年後の瓦屋根

表面を保護したり、
色を出したり…
釉薬(うわ薬)の力

粘土瓦は表面に釉薬をかけてから焼成されます。釉薬は高温で焼かれると安定したガラス質に変化し、含まれた顔料が多彩な色を生み出します。このガラス質の層が汚れや色落ちから瓦をしっかりと守ります。

1,130℃で焼き締められる瓦





Q. 他の屋根材に比べてちょっと
高くないかしら？化粧スレートの
倍くらいするって聞くけど・・・



A. 確かに初期費用は
高いんですが、30年のコストで考えると
はるかに安いんです。屋根材は
長持ちするものを選ぶのがコツです。



錆びない・色落ちしない、だから塗り替えコストが不要です。

粘土瓦の初期費用は化粧スレートに比べると高いのは事実。でも、ガラス質でしっかりと保護された粘土瓦は色落ちしないため、塗り替えコストが不要です。化粧スレートや金属は5～15年で表面の着色が退色するため、再塗装が必要です。20年、30年という単位で見れば、ずいぶんとお得!!というのが粘土瓦のメリットです。

コストとメンテナンスのイメージ図 屋根面積100m²で、メンテナンスコスト・シュミレーションを行いました。

屋根材別/初期コスト	10年	20年	30年	トータルコスト
当社粘土瓦 (フリーエアー工法) 1,000,000円 (約10,000円/m ² として)	高耐久塗り替えの必要なし			約1,140,000円 (100万+14万) フリーエアーロール巻き替え 約4,500円/m × 30m/年
化粧スレート 500,000円 (約5,000円/m ² として)	表面塗装 700,000円	表面塗装 700,000円	巻き替え 1,200,000円	約3,100,000円 (50万+70万×2+120万)

※化粧スレート資料: 住宅産業協賛会より

化粧スレートと
比べて30年間で

約 **196** 万円
 ☆ お得!! ☆

※専門業者による定期点検を10年に1回程度を目安として実施するようにお願いします。
 ※フリーエアー工法は、当社の高耐久屋根システムです。

Q. 屋根材によって
快適さや過ごしやすさは
違うのかしら？



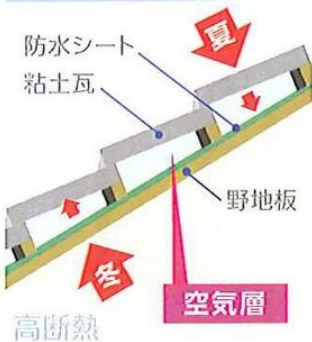
A. はい。屋根材によって違います。
粘土瓦は化粧スレートなどと比べて、
夏涼しく、冬暖かいんです。



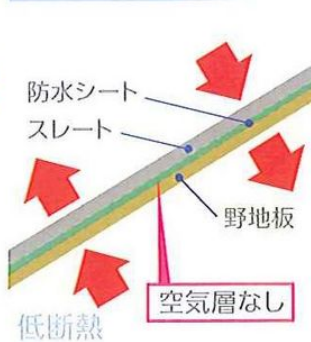
瓦と野地面の空気層が
ポイントです。

粘土瓦の場合、化粧スレートと違って野地面との間に空気層ができます。そのため通気性も良くなり、熱を屋根裏へ伝えにくく、また室内の熱を逃がさない働きがあるのです。

瓦の場合



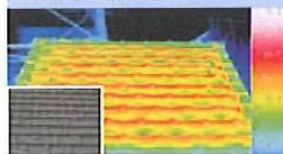
化粧スレートの場合



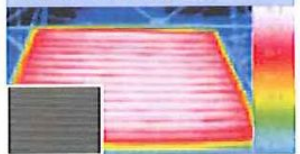
瓦と化粧スレートの温度の比較

日差しの強い夏、化粧スレートの場合、野地表面の温度は57.9℃まで上昇します。これに対し、粘土瓦の場合には48.9℃。その差は9℃。粘土瓦の断熱性能の良さを証明する数字です。瓦は粘土を原料とした「やきもの」です。湯飲みと同じように、熱さを伝えにくい素材のため、室内は夏涼しく、冬暖かいのです。

粘土瓦 夏季表面温度



化粧スレート 夏季表面温度



赤外線を反射する新機能瓦 遮熱瓦

太陽の赤外線を選択的に反射して、屋根を通過する熱を低減させることにより、室内温度の上昇を防ぎます。



スマート サマースノー

Q. 地震のニュースで
瓦屋根の家が倒壊

しているのを見るとやっぱり
重いからかな？と思うんだけど…



A. いいえ。倒壊の原因は瓦ではなく
家の強度が問題だったのです。

要因は軟弱な地盤、建物の強度不足、建物の形状・バランス
です。建築基準法にそった家なら屋根の重さを考慮した
設計をするため屋根が瓦でも大丈夫ですよ。

大地震でも、
新耐震基準なら
大丈夫

右の写真は昭和50年(1975年)に建てられた物件を耐震補強ありと補強なしを実物件で比較した耐震実験です。耐震補強を行うことで昭和56年以前に建てられた物件も新耐震基準レベルまで耐震強度を上げられることが実証されました。また、瓦屋根の安全性も実証されました。



Q. 地震も怖いけど、日本は台風が多いから、風の被害も気になる…
瓦って簡単に落ちたり飛ばされないかしら？

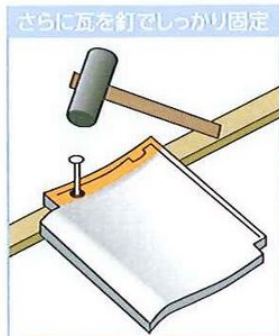


A. 瓦は進化してますよ。
瓦同士をがっちりかみ合わせる「防災瓦」なら安心です。
鶴弥の瓦は全て防災瓦です。

地震・台風に強い!!
防災瓦のココがポイント!!

スーパーロック工法が屋根を、音らしを守ります。

下の瓦のハイパーアームが上の瓦のアンダーロックをがっちりと押さえ込むスーパーロック工法。台風時などの強風や震度7クラスの地震に威力を発揮するオリジナルな工夫です。



防災瓦との組み合わせで威力発揮の棟金具仕様(ガイドライン工法)*

屋根の棟部分を専用の金具などでしっかりと固定し、瓦のスレや脱落を防ぐガイドライン工法。防災瓦と組み合わせれば強風にも地震の揺れにも安心です。

この工法にそわない古い工法ではスレや脱落が起こりやすくなるのです。

*震度7クラスの揺れに耐えられるよう科学的実験により実証された全日本瓦工事業連盟の推奨する耐震・耐風工法です。



*棟金具仕様は、地域によって仕様が異なります。

いろいろいいね!粘土瓦

一番のポイントは美しさが長持ちして
塗り替えコストがかからないところね。
20年30年と長い目でみたら、ずい分
「おトク」ってことなのね。

それに厳しい暑さ、寒さの中でも
「快適な住まい」が保たれることも、
とっても魅力的だよ。



そうなんです!

デザインやカラーが豊富・長持ち・快適・安心
さらに雨音も静か。四季や梅雨、台風・地震の
ある日本で、ずっと使われてきた屋根材「粘土瓦」。
やっぱり日本の屋根には粘土瓦が一番ですよ!

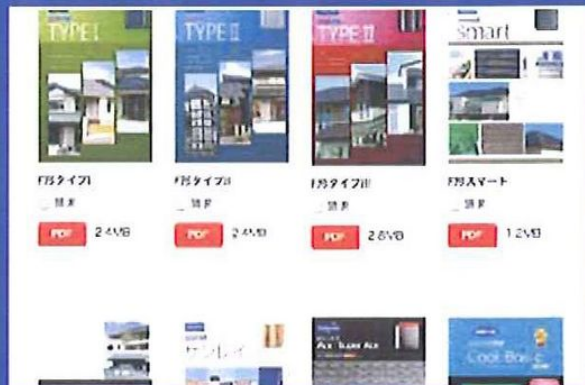
創業百余年。鶴弥は粘土瓦の
リーディングカンパニーとして、
弛まぬ挑戦を続けていきます。

1400年の時を重ね、日本の伝統となった粘土瓦。
焼き物ならではの重厚感と、
葺き上がりの美しさが住宅に高級感を演出します。
鶴弥は明治20年の創業以来、
瓦づくり一筋に歴史を重ねてきました。
日本の伝統を守りながら
進化し続ける屋根材として、これからもみなさまに
粘土瓦をお届けしていきます。





豊富な施工事例



カタログ(閲覧・請求)



カラーシミュレーション

<http://www.try110.com/kawara/color.html>



粘土瓦ができるまで

製品情報・もっと詳しい瓦の情報・
資料請求は鶴弥のHPをご覧ください!

www.try110.com

鶴弥

検索



三州瓦製造・販売

特約店

